令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■共同研究 1	公益目的事業 11
主査名	福田弥夫 八戸学院地域連携研究センター教授	
研究テーマ	自動車損害賠償責任保険と被害者保護増進等事業において NASVA の果たす役割とその課題	
<p>令和4年度の自動車損害賠償保障法の大改正によって、自賠法の目的の柱の一つとなった被害者保護増進等事業であるが、改正前の事業の原資は、平成13年改正前に行われていた再保険制度による運用益であった。しかし、再保険特別会計からの一般会計への貸し出しなどの結果、平成13年改正において、被害者保護増進等事業を実施するスキームであった積立金の運用による事業実施は不可能となり、これまで特別会計の残額を切り崩しながら実施してきた。令和4年の改正によって新たな賦課金が導入され、これを原資の一つとして被害者保護増進等事業が実施されている。この事業は、NASVA に対する事業助成などを中心とする国による事業と、JA 及び損害保険協会においそれぞれが抵触しないよう実施されている。賦課金の導入により、実施される事業の評価等について透明性が強く求められるようになり、それまで民間の側において行われていた点数評価制と継続等の判断は、国の事業においても求められるようになり、被害者保護増進等事業に関する検討会における評価等が実施されるようになってきた。</p> <p>本研究では、令和4年の改正によって自賠法の新たな柱となった被害者保護増進等事業につき、これまで運輸省及び国土交通省を主体として実施されてきた各種事業のほか、JA や日本損害保険協会による各種事業を検討し、新規事業の採用やその評価等について検討を加える。これまで、初年度においては国、JA そして日本損害保険協会による各種事業を検討し、その評価等について検討を加えた。2年目は被害者団体からのヒアリングを中心に、交通事故被害者の立場から、被害保護増進等事業に求められるものを検討した。3年目となる今年度は、NASVA による介護料支給などの各種支援事業の状況を調査し、交通事故被害者の実態から課題となるものを検討することとする。</p> <p>交通事故死者数は顕著な減少を見ているが、重度後遺障害者の発生は、必ずしも死者数のような顕著な減少を見せてはならず、依然、重要な課題である。</p>		